

第十一回目

発行責任者

員弁組連研部会長

蓮成寺 藤田 智善

第十一回目のテーマ

「私は差別をしたことはありません。

ありません。

なぜ部落差別はなくな

ないのでしょ

うか。私はなにをすればよいで

しょうか。」

南金井蓮成寺 藤田 智善

《話し合い法座での意見》

・お寺で差別の話をするのはいいが部落差別をあえて掘り出す必要は無い。

・部落差別を寺の関係者のプライドから平等を唱えている。

・昔はホームルームで部落差別の

話し合いがあったが、今は。

・外国人の言葉や容姿の違いに差別はある。

・女性が入れない土俵や高野山が今もあるのはおかしい。

・差別は本能だから仕方が無い。

・差別にふれたくない。長いものにまかれている。

・身近に感じた経験がないので問題視できない。

・自分が加害者にならないければよいのでは。

他にもたくさん

の意見や疑問が出ていましたが担当者で抜粋しました。これらについてみなさんも考えてみてください。

まとめ

誰もが今を生きています。

様々な出来事に出会いながら生きています。

うれしいこと。楽しいこと。

つらいこと。悲しいこと。

苦しいこと。腹の立つこと。

いつまでも、あり続けてほしいこ

とも。

できれば消し去ってしまいたいことも。

それぞれの出来事には、その事を

生み出してきた背景があります。

自ら選び取ってきた背景もあれば、

否応なしに与えられてきた背景も

あります。

今に立ち尽くすとき、人は時とし

て「なぜこんな事に」とつぶやき、

その背景の闇の深さに「だからし

第11期

連研だより

月ようがない」と、自分の今をあきらめたりもします。

18年 5月
0 宗門や員弁組では、同朋運動（部落差別をはじめとして、あらゆる差別・被差別からの解放を願い進める、念仏の運動）に出会って、被差別の立場に立たされてる人たちから、多くのことを教わり、学ぶことを大切にしてきました。

そんな中で、「差別に負けない」という言葉は、大切なことです。

幾人もの「差別に負けない」生き方をつらぬいた人、つらぬいてる方がいます。

そのお一人の一言があります。

「あなたたちには、差別の中を、名乗って生きていることの苦しさを、つらさはわからないのですね」

差別の現実から、自分を隠そう逃げようとすることを背負わされている人の毎日の苦しさをつらさは思えても、差別に向き合い解放を願っていきる人もまた同じ苦しさを背負ってなお自らを名乗って生きていることに、思いがたりません。

同じような現実を背負いながら、あきらめて「しようがない」と流されていく人があり、「だからこそ」と自分の人生を尽くして生きる人もあります。

人は誰でも、たとえ気づかなくても、心の底では人生を尽くすことを願っています。

「だからしようがない」から「だからこそ」へと私の今を転じ変えてくださる働きこそ、阿弥陀さまのお救いです。

A 会場 仏 事 常 講 師 山 曉 師
法 寺 梅 山 師 常 講 師



《仏事作法おさらい》

正信偈の唱法（2）

日常勤行聖典 P29 参照

- ・ソの音で発声します。
- ・善導独明「ぜんどうどくみよこう」と引のところに注意する。
- ・各項三行目は息継ぎをしない。
- ・開入本願「かいにこうとワル文字が沢山あります注意をしましょう。」